

法人名	公益財団法人愛媛県動物園協会
-----	----------------

所管部(局)課	土木部 都市整備課
---------	-----------

1 法人の概要

平成 31 年 3 月 31 日 現在

代表者名	理事長 佐伯 要	ホームページURL	http://www.tobezoo.com/		
所在地	愛媛県伊予郡砥部町上原町240番地	電話番号	089-962-6000		
基本金・資本金等	20,000 千円	設立年月日 (移行年月日)	昭和62年 4月 1日 (平成22年 6月 1日)		
主な出資者	出資者名		出資額(千円)	出資比率(%)	
	愛媛県		10,000	50.0	
	(利益繰入)		10,000	50.0	
設立目的	愛媛県立とべ動物園の有効利用の推進に協力するとともに、動物の知識及び動物愛護思想の普及を図り、もって県民の教育文化の向上に寄与することを目的とする。				
設立の経緯及び経過	平成22年6月1日公益財団法人に移行				
主な事業内容	県から委託を受けて行う愛媛県立とべ動物園他の維持管理運営、動物園事業に関する援助協力、動物の知識及び愛護思想の普及事業、遊具売店他の収益事業			管理受託施設 (指定管理者施設を含む) 愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場	

2 組織の状況(平成30年度事業分)

(単位:人)

区分	年度	平成27年度					平成28年度					平成29年度					平成30年度					増減	左記の増減理由
		合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員	合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員	合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員	合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員		
評議員		3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
常勤		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤		3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
理事等		8	0	0	0	2	8	0	0	0	2	8	0	0	0	1	8	0	0	0	1	0	
常勤		2	0	0	0	2	2	0	0	0	2	2	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	
非常勤		6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	
職員		70	64	3	0	3	71	65	3	0	3	67	63	3	0	1	65	60	3	0	2	△2	正規職員は、欠員補充。非正規職員は、欠員補充職員の減、遊具職員の減
正規職員		42	36	3	0	3	42	36	3	0	3	40	36	3	0	1	42	37	3	0	2	2	
非正規職員		28	28	0	0	0	29	29	0	0	0	27	27	0	0	0	23	23	0	0	0	△4	
常勤職員		16	16	0	0	0	17	17	0	0	0	15	15	0	0	0	13	13	0	0	0	△2	
非常勤職員		12	12	0	0	0	12	12	0	0	0	12	12	0	0	0	10	10	0	0	0	△2	
県関係職員の実数		3	1	3	0	0	3	1	3	0	0	3	1	3	0	0	3	1	3	0	0	0	
県退職後2年内雇用OB		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
役員・職員の兼務等特記事項	H27,28,29,30常務理事兼事務局長、理事兼園長(ともにプロパー)																						

※役員・職員の兼務等特記事項については、プロパー、県職員の別を明記してください。

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

3 実施事業評価表

※事業計画書に記載されている主要事業については、必ず記載してください。

(単位:千円、%)

事業名1	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
動物園管理他に 関する事業	経常費用	573,094	579,680	585,286	574,856	583,932	1.6	
	うち 人件費	290,858	313,886	324,939	315,370	329,017	4.3	
	経常収益	572,936	580,092	572,158	565,027	556,785	△1.5	
事業 開始年度	うち 県補助金等	351,273	351,215	364,212	351,826	342,788	△2.6	
事業 終了年度	※予定、見込 みがある場合 うち 受取寄付金額等	6,085	3,606	5,109	3,474	4,150	19.5	サポーター制度の寄付金額の増加と大口の個人寄付があったこと
成果指標	指標項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	入園者満足度(%)	98.1	92.8	91.3	95.3	92.4	△3.0	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。アンケート調査による、園内施設に対する満足度81.3%、動物の展示に関する満足度97.0%、職員の勤務態度に関する満足度99.0%の平均。
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	動物園の維持管理を行い、来園者に満足してもらえる施設づくりを目指す。							

(単位:千円、%)

事業名2	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
鳥獣保護・調査研 究事業	経常費用	2,620	2,856	1,033	515	497	△3.5	
	うち 人件費	1,330	1,420	488	474	495	4.4	
	経常収益	2,619	2,856	1,033	515	497	△3.5	
事業 開始年度	うち 県補助金等	272	468	492	497	497	0.0	
事業 終了年度	※予定、見込 みがある場合 うち 受取寄付金額等						-	
成果指標	指標項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	鳥獣保護受入割合(%)	100	100	100.0	100.0	100	0.0	野生鳥獣の保護要請に対する受入割合(100%)目標
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	野生傷病鳥に関して、適切な保護要請があれば受け入れを行い、治療後自然界へ戻す。							

(単位:千円、%)

事業名3	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
協力・普及活動事 業	経常費用	4,169	3,770	3,701	7,427	7,599	2.3	
	うち 人件費	2,116	2,224	2,296	2,228	2,324	4.3	
	経常収益	4,168	3,780	3,701	7,247	7,599	4.9	
事業 開始年度	うち 県補助金等						-	
事業 終了年度	※予定、見込 みがある場合 うち 受取寄付金額等			620	535	581	8.6	
成果指標	指標項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	イベント・教育事業への参加者満足度(%)	98.3	89.8	98	96	92	△3.8	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。アンケート調査による、園内施設に対する満足度81.3%、動物の展示に関する満足度97.0%、職員の勤務態度に関する満足度99.0%の平均。
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	イベント・教育事業を行い、動物に対する興味や知識、命の大切さなどを学んでもらう。							

(単位:千円、%)

事業名4		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
収益事業	経常費用		59,477	63,757	56,570	55,468	50,390	-	
	うち 人件費			13,723	14,164	13,747	14,342	-	
	経常収益			88,768	69,993	73,540	72,694	-	
事業 開始年度								-	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合							-	
成果指標	指標項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由	
	利益率(%)		28.2	19.2	24.6	30.7	24.9	収益事業の安定性、健全性を保つため、利益率20%以上を目指す。	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		園内売店、遊園地、自動販売機等、来園者の利便性を向上させるため収益事業を実施。							

(単位:千円、%)

事業名5		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
	経常費用							-	
	うち 人件費							-	
	経常収益							-	
事業 開始年度								-	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合							-	
成果指標	指標項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由	
	交付数量(t)						-		
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)									

(単位:千円、%)

事業名6		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
	経常費用							-	
	うち 人件費							-	
	経常収益							-	
事業 開始年度								-	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合							-	
成果指標	指標項目(単位)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由	
							-		
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)									

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

(単位:千円、%)

4 財務状況(H30年度)

区 分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (個々の項目で前年度10%前後の増減及び 当該年度特有の事情による増減があった場合に記入)
【正味財産増減計算書】	経常収益計	635,919	663,952	633,461	628,267	615,332	△2.1	
	うち公益目的	555,518	576,368	563,468	554,717	542,577	△2.2	
	うち基本財産運用益	29	29	29	29	32	10.3	
	うち公益目的	29	29	29	29	32	10.3	債券での運用の期間満了のため
	うち事業収益	268,677	301,260	256,483	271,123	265,638	△2.0	
	うち公益目的	188,374	213,766	186,588	202,394	188,019	△7.1	
	うち受取補助金等(委託料・ 負担金含む)	351,188	351,372	364,704	352,323	343,285	△2.6	
	うち公益目的	351,188	351,372	364,704	352,323	343,285	△2.6	
	経常費用計	636,094	646,985	647,674	639,123	643,512	0.7	
	うち公益目的	576,480	581,925	590,020	582,618	592,028	1.6	
	うち事業費	627,896	637,410	637,368	632,083	646,953	2.4	
	うち公益目的	576,480	581,925	590,020	582,618	592,028	1.6	
	うち管理費	8,198	9,576	10,306	7,040	6,559	△6.8	
	うち公益目的	0	0	0	0	0	-	
当期経常増減額	-175	16,967	-14,213	-10,856	-28,181	△159.6		
当期経常外増減額	0	-5	0	-1	0	△100.0	30年度は、廃棄する備品がなかったため	
当期正味財産増減額	-7,605	11,863	-19,372	-10,399	-28,271	△171.9	収支悪化による	
【貸借対照表】	資産	490,230	500,749	488,175	488,508	473,075	△3.2	
	流動資産	84,419	95,779	90,384	82,777	90,889	9.8	
	固定資産	405,811	404,970	397,791	405,731	382,186	△5.8	
	うち基本財産	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	0.0	
	負債	368,044	366,699	373,498	384,230	397,068	3.3	
	流動負債	71,856	65,099	53,570	56,054	76,707	36.8	年度末が日曜日であったので月末支払いが翌日となったので、未払金と預り金が増えた
	うち短期借入金	0	0	0	0	0	-	
	固定負債	296,188	301,600	319,928	328,176	320,361	△2.4	
	うち長期借入金	0	0	0	0	0	-	
	正味財産	122,186	134,049	114,677	104,278	76,007	△27.1	
	指定正味財産	24,267	19,169	14,010	14,467	14,376	△0.6	
一般正味財産	97,919	114,881	100,668	89,812	61,631	△31.4	収支悪化による	
負債・正味財産合計	490,230	500,749	488,175	488,508	473,075	△3.2		

【人件費内訳】(H30年度)

(単位:千円、%)

区 分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
役員人件費		720	690	740	690	740	7.2	
職員人件費	うち事業費分	318,855	328,924	339,587	329,442	343,774	4.4	
	うち管理費分	3,977	2,329	2,300	2,377	2,403	1.1	
	小 計	322,832	331,253	341,887	331,819	346,177	4.3	
合 計		323,552	331,943	342,627	332,509	346,917	4.3	

【県の財政的関与】(H30年度)

(単位:千円、%)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
負担金	0	0	0	0	0	-	
補助金	0	0	0	0	0	-	
委託料	351,153	351,349	364,704	352,323	343,285	△2.6	
うち指定管理委託料	350,881	350,881	350,881	351,826	341,388	△3.0	
うち再委託額	94,774	93,053	96,026	95,292	94,817	△0.5	
貸付額	0	0	0	0	0	-	
県支出金計	351,153	351,349	364,704	352,323	343,285	△2.6	
貸付残高(期末)	0	0	0	0	0	-	
損失補償に係る債務負担残高(期末)	0	0	0	0	0	-	

【県の財政的関与の内訳】(H30年度)

(単位:千円)

区分	名称	金額	左記の内容 <small>※それぞれの始期を(終期が決まっている場合は終期も)記載すること。単年度のみ負担金等は、その旨を記載。 ※貸付金については、貸付期間も記載すること。</small>
負担金			
補助金			
委託料	とべ動物園他指定管理料	341,388	指定管理協定に基づく愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場の維持管理運営
	野生傷病鳥獣保護事業	497	傷病鳥獣の保護 ツバメなど
	無料送迎バス事業	1,000	南予他から動物園までのバス送迎
	海外技術研修員の研修事業	400	海外技術研修員1名の飼育等の実習
貸付金			
損失補償			

【財務関係指標】(H30年度)

(単位:%)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減	指標計算式
県財政支出依存度	55.2	52.9	57.6	56.1	55.8	△0.3	県からの補助金等(補助金・負担金・委託金)÷経常収益計×100
県受託事業の再委託度	27.0	26.5	26.3	27.0	27.6	0.6	県からの受託事業の外部委託費÷県からの受託事業費×100
人件費比率	50.9	51.3	52.9	52.0	53.9	1.9	人件費÷経常費用計×100
管理費比率	1.3	1.5	1.6	1.1	1.0	△0.1	管理費÷経常費用計×100
正味財産比率(会社法人及び公社以外)	24.9	26.8	23.5	24.1	16.1	△8.0	正味財産÷(負債+正味財産)×100
流動比率	117.5	147.1	168.7	147.7	118.5	△29.2	(流動資産÷流動負債)×100
借入金依存率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	(長期借入金+短期借入金)÷資産×100
公益目的事業比率	90.6	89.9	91.1	91.2	90.6	△0.6	(公益目的事業費)÷(公益目的事業費+収益事業等の費用+管理費)×100

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

5 法人の現状及び過去の評価結果

<p>法人の現状</p>	<p>県からの管理委託料が削減されるなかで、経営の安定を図るため、とべ動物園の入園者数の確保と経費節減に積極的に取り組んでいる。 また、平成22年6月に公益財団法人に移行し、法人としての自立性の向上、組織体制の強化、公益事業の一層の推進に努めている。 平成31年度から5年間とべ動物園の指定管理者に指定されている。</p>
<p>県出資法人改革プランに基づく最終点検評価結果 (平成22年度総評)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は、平成18年度からの指定管理者制度導入以後、様々な工夫した取組みを実施した結果、とべ動物園の入園者数、入園料収入を増加させており、その取組みは大いに評価できる。 ・開園して22年を経過している施設の維持改修については、入園者数、利用料金収入の増加を図る観点も含め、県と協議して計画的に実施していただきたい。 ・獣医の県職員派遣は、当法人の公益性や経営状況等を勘案し、将来的にはノウハウ等を継続した上で、プロパー化を進めていただきたい。
<p>県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成23～25年事業総括)</p>	<p>○21年度には、高速道路利用料金の大幅な割引制度の実施や全国的な動物園ブームの影響で、利用者数及び入園料他収入は開園当初6年間を除き最大となっていたが、割引制度終了後は、利用者及び入園料他収入が減少し、評価全期間において赤字を計上しており、収支の両面からの改善に早急に取り組んでいただきたい。</p> <p>○人口の減少、少子化、レジャーの多様化、動物園ブームの終焉、中四国地区の他園との競合、獣舎リニューアルに活用していた助成制度の廃止など、動物園を取り巻く環境が厳しさを増す中、25年度の利用者数はピーク時(21年度)の約4分の3近くまで落ち込んでおり、利用者数の確保が喫緊の課題となっている。このため、イベント開催などソフト面の充実、人気動物の繁殖や展示方法の工夫など来園者サービスの向上を図るとともに、近隣施設との連携強化を進めるなど、様々な対策を検討・実施のうえ、利用者の確保につなげていただきたい。</p> <p>○新公益法人体系への移行に伴い、評議員制度を導入し、組織体制の見直しを図ったことは評価できる。</p> <p>○獣医師の県職員派遣は、法人の公益性や経営状況等を勘案したうえで見直すべき長期的課題であり、将来的にはノウハウ等を継続したうえで、プロパー化に取り組まれない。</p>
<p>県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成26～29年事業総括)</p>	<p>○動物の高齢化や病気・ケガ等を原因とする死亡が相次ぎ、心を痛める県民が多いため、繁殖技術の向上に努めるほか、県の適切な財政関与の下で新しい動物の確保、展示方法の工夫を推進するなど、公立の動物園にふさわしい魅力ある施設整備等に努めること。</p> <p>○正味財産比率がここ数年減少傾向にあることから、経営の基盤を強化すべく、適切な管理運営に必要な経費について県の担当課と協議するとともに、中期経営計画にあるように、SNSツールを活用した広報や営業力の強化など、入園者及び収入の増加に努めること。</p> <p>○県からの獣医師の派遣については、法人の公益性や経営状況を勘案した上で見直すべき課題であることから、将来的にはノウハウ等を継承し、プロパー化するよう引き続き取り組むこと。</p>

6 令和元年から令和4年における2次評価内容

<p>令和元年</p>	<p>①30年度の財務状況は、当期経常増減額が、29年度の -10,856千円から -28,181千円と赤字幅が拡大、一般正味財産も28,181千円減少した。 これは、人件費の増加などにより、「動物園管理他に関する事業」の収支が -9,829千円から -27,147千円に大幅に悪化したためであり、効率的な人員配置・経費の更なる節減に努めるほか、展示動物の充実や施設の改修といった魅力向上に取り組む、来園者数の増加・サポーターの拡大による収入の確保など、収支の改善を図ること。</p> <p>②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。</p> <p>③ツイッターを活用した魅力発信や、ホームページに複数期分の事業報告を掲載するなど、公開情報の充実に取り組んでいることは評価できる。引き続き、ホームページやSNS、マスコミなどを活用した効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。 なお、財務状況に関する情報の公開・提供(ホームページ・パンフレット等)に当たっては、説明責任を果たすためにも、正確で分かりやすい表現に努めるほか、事業ごとの具体的な状況(収支・成果)の記載にも努めること。</p>
<p>令和2年</p>	
<p>令和3年</p>	
<p>令和4年</p>	

7 県出資法人経営評価指針に基づく今後の課題と取組実績

(1) 出資法人の自主性・自立性の向上

○組織体制の見直し、役職員数及び給与制度の見直し

取り組むべき課題		
取組内容	共通	
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

○経営基盤の充実強化、経営におけるPDCAサイクルの実践

取り組むべき課題		利用の促進を図り、利用料金の増収とともに、天候などに左右されない安定した収入の確保についても努力する。経費の節減にも努める。
取組内容	共通	積極的なイベント開催やPRによる来園者サービスの向上を図るとともに、経費の節減に努める。
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

(2) 県の関与の適正化

○財政的関与の見直し

取り組むべき課題		法人の財政基盤の強化
取組内容	共通	適正な指定管理委託料の確保
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

○人的関与の見直し

取り組むべき課題		獣医のプロパー化
取組内容	共通	協議しながら検討を進める。
	令和元年	プロパー職員育成に係る取組
	令和2年	プロパー職員育成に係る取組
	令和3年	プロパー職員育成に係る取組
	令和4年	プロパー職員育成に係る取組

※プロパー職員育成計画等を作成している場合は添付してください。

○出資法人の活用

取り組むべき課題	近隣の県施設との連携	
取組内容	共通	こどもの城や運動公園との連携による集客を図る
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

※特に、産業振興や地域活性化への関与、貢献に当たる取組みや事業を記載してください。

(3)法人情報等の積極的な開示等

○法人情報の公開

取り組むべき課題		
取組内容	共通	
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

○認知度の向上

取り組むべき課題	更なる情報の公開、とべ動物園のPR	
取組内容	共通	様々なツールを活用しながらPRに努める。
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

8 令和元年度評価

(1)1次評価

法人による評価	<p>平成30年度は、開園30周年行事として開催した記念講演や記念誌作成などの他、広報・営業班による広報宣伝活動に取り組んだことや、県が新たに実施したグランピングやイルミネーション、アワード等により入園者数は、460,308人、対前年度924人の微増(+0%)となった。</p> <p>ただし、収支面では、協会の当期収支差額は、人件費の増加もあり、特定預金を15,000千円取り崩した上で、14,000千円程度の赤字となった。ソフト面を中心とした動物園の魅力の向上による入園者の確保に努めるとともに、県とともに施設改修計画をまとめ、利用者の満足度をさらに高めていく。</p>
法人所管課による評価	<p>30年度の入園者数は、7月豪雨災害や猛暑等による大きな減少要因があったものの、前年度との比較ではやや増加した。ただし、過去数年間を振り返ってみると減少傾向であることには変わりはない。</p> <p>一方で、30年度はピューマやペンギンなど数多くの動物の繁殖に成功し、高い繁殖技術を有していることは高く評価できる。</p> <p>また、来園者向け園内イベントを数多く開催したり、移動動物園や飼育実習等の教育事業推進等により、園内外において広く活動をしている。</p> <p>今後は入園者数の増大を図るため、展示動物の充実にも努めるとともに、話題性のあるイベントの実施や広報強化、動物園の魅力向上のための取組みを強化していくことが求められる。</p>

(2) 2次評価

- ①30年度の財務状況は、当期経常増減額が、29年度の -10,856千円から -28,181千円と赤字幅が拡大、一般正味財産も28,181千円減少した。
これは、人件費の増加などにより、「動物園管理他に関する事業」の収支が -9,829千円から -27,147千円に大幅に悪化したためであり、効率的な人員配置・経費の更なる節減に努めるほか、展示動物の充実や施設の改修といった魅力向上に取り組み、来園者数の増加・サポーターの拡大による収入の確保など、収支の改善を図ること。
- ②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。
- ③ツイッターを活用した魅力発信や、ホームページに複数期分の事業報告を掲載するなど、公開情報の充実に取り組んでいることは評価できる。引き続き、ホームページやSNS、マスコミなどを活用した効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。
なお、財務状況に関する情報の公開・提供（ホームページ・パンフレット等）に当たっては、説明責任を果たすためにも、正確で分かりやすい表現に努めるほか、事業ごとの具体的な状況（収支・成果）の記載にも努めること。